



## 露の非友好国へ単板輸出禁止 供給不安へ

国産針葉樹合板の供給状況がさらに厳しさを増しているようです。合板メーカーによっては納期がほとんど確定できず、受注残の解消へ至らない状況が続いています。

9日、ロシア政府は2022年末まで、日本を含む「非友好国」に対して、チップや丸太、単板を輸出禁止とすることを決定。これにより輸入単板を使用する合板について供給不安が増加しました。

業界では「ロシア単板の使用量が多い合板工場では、今後の生産計画の見直しや国産材の扱いを増やすなど、国産原木の調達を強化すると思われる」との見立てが述べられています。製材工場や集成材メーカーとの国産原木を巡る争奪戦は、さらに激しくなる可能性が予測されるでしょう。

アイテム別にみると12mm品は一部で「代替品による対応をしている」との声も聞かれますが、厚物合板についてはそのような対応が難しく、現場からの問合せが日々増す一方だそうです。

価格は3月に過去最高値を更新しましたが、今後、原木価格の上昇を避けることは厳しいです。これにより合板価格のさら

なる上昇も予想できます。供給不安は今後さらに強くなるでしょう。

さて、輸入合板は依然として港頭在庫が満杯の状態です。在庫バランスが悪いとの声を聞きます。必要とされるアイテムは欠品したままの状態です。また、ロシアの非友好国に対する輸出禁止によって国産針葉樹合板の代替需要が上昇。引き合いが高まったことから海外事業者にも12mm品のオーダーが集中しています。

事業者側は原木不足や人手不足などから要求された数量に応えられていません。代替品がすぐに日本国内で流通することは不可能に近いといえるでしょう。

ロシア・ウクライナ情勢によって世界的な原油高騰が発生し、海上運賃や接着剤などエネルギー類を含めた価格の高騰が続いています。この他、現地マレーシアの最大手合板メーカーで発生した火災についても今後、塗装型合板にどう影響するかが注視されています。

## ZEH支援制度や長期優良住宅化リフォーム推進事業活用を

経済産業省と環境省のZEH支援事業の委託を受ける（一社）環境共創イニシアチブ（SII）は、令和4年度の公募期間などを公表しました。この内、経済産業省が戸建ZEHを対象に行う次世代ZEH+（注文住宅）実証事業の一次公募期間は5月20日～8月12日の予定となっています。

同事業は個人が「ZEH+」、寒冷地や低日射地域、多雪地域で「Nearly ZEH+」を建築し、その上で①蓄電システム、②V2H充電設備（充放電設備）、③燃料電池、④太陽熱利用温水システム、⑤太陽光発電システム10kW以上——のいずれか1つ以上を導入した場合に、100万円/戸が補助される制度です。この他、導入される①～④についてはそれぞれ製品ごとに補助額が加算されます。

また、環境省も戸建ZEHを対象にした補助事業を実施。「新築住宅を建築・購入する個人」・「新築住宅の販売者となる法人」を対象にZEH、Nearly ZEH（寒冷地、低日射地域、多雪地域に限る）、ZEH Oriented（都市部狭小地の二階建以上及び多雪地域に限る）を建築する場合は55万円を補助するというものです。

また、「ZEH+」の他、寒冷地や低日射地域、多雪地域で「Nearly ZEH+」を建築し、なおかつ①外皮性能の更なる強化、②高度エ

ネルギーマネジメント、③電気自動車（PHV車を含む）を活用した自家消費の拡大措置のための充電設備又は充放電設備——のうち、2つ以上を導入した場合、100万円/戸が補助される。一次公募は5月13日～6月17日を予定しています。

なお、補助を受けるためにはZEHビルダー/プランナーとしてSIIに登録し、設計、建築、改修又は販売などの関与を行う必要があるため注意が必要です。その他、経済産業省・環境省の支援事業における現時点で交付規程・公募要領等の公開は4月中旬ごろの予定となっている。

### 長期優良住宅化リフォーム推進事業 募集スタート

国土交通省は4月8日、既存住宅の性能向上や子育てしやすい環境整備につながる優良なリフォームを支援する「長期優良住宅化リフォーム推進事業」の募集を始めました。

対象となる事業は条件①インスペクションを実施し、維持保全計画・履歴を作成すること、②工事後に耐震性と劣化対策、省エネルギー性が確保されていること——を満たす戸建住宅又

は共同住宅のリフォーム工事となっています。

性能向上リフォーム工事に要する費用や、子育て世帯向け改修工事に要する費用、インスペクションと維持保全計画・履歴作成に要する費用などを補助します。補助率は対象費用の3分の1で、補助限度額は原則1戸あたり100万円となります。

申請手続きは主に建築事業者が行います。例えば、お施主様が所有する住宅をリフォームする場合、工務店はお施主様とリフォーム工事の請負契約を締結し、国に同事業を申請します。補助が認められた場合、工務店がお施主様に補助額を還元するという流れです。

## 空気の流れをデザインする

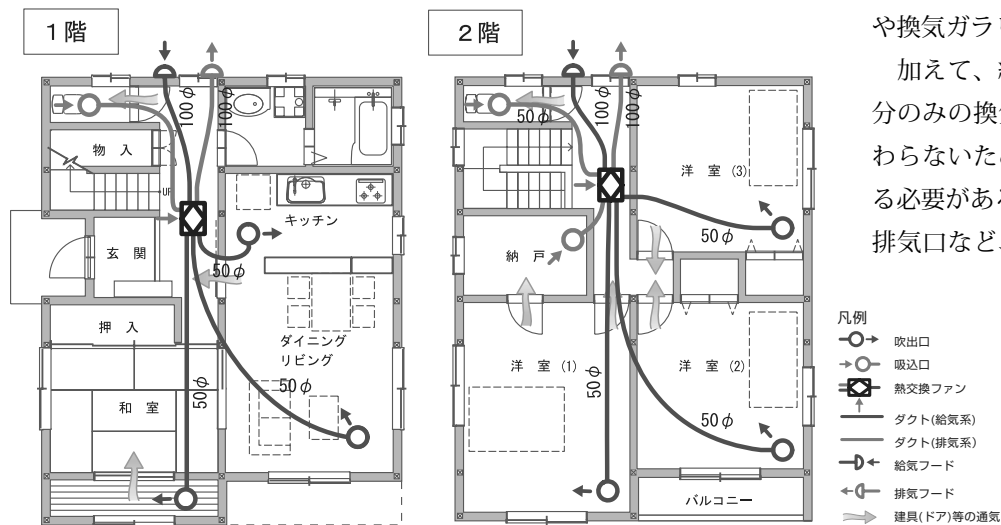
昨今コロナウイルス感染拡大により、換気の重要性がますます高まっている。コロナ対策として、住宅に24時間換気システムが導入されている場合は常時稼働し、加えて窓開けによる換気も実施するなどの換気方法が挙げられる。

2003年7月にシックハウス対策として24時間換気システムの設置が義務化。住宅の居室等では0.5回/h以上の換気回数が必要となった。これは1時間で半分の室内空気を入れ替えるということ。そのため、換気計画では2時間に1回、室内空気を入れ替わるように換気量を設定しないとイケない。

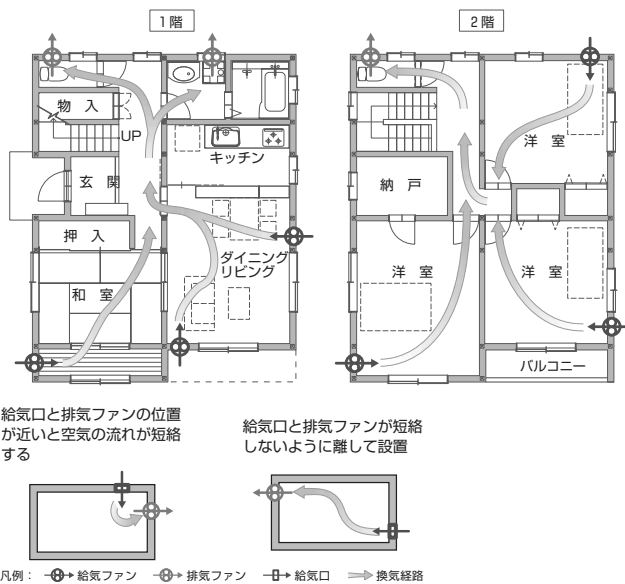
例えば、延べ床面積100㎡、天井の高さ2.5mの住宅の場合、気積(室内空気の総量)は250㎡となる。この気積が2時間に1回入れ替わるには、1時間に125㎡の換気量が必要だ。加えて、部屋干しなど、水蒸気の発生が多くなることを行うと、換気不足で結露が生じる場合がある。そのため、お施主様には、住宅内の空気がしっかり入れ替わるように、24時間換気システムの設定の調節などが求められることを伝えておこう。

### 居室等の扉にも開口必要

また、換気を行う際、「空気の流れ(換気経路)を作る」



熱交換換気システムを導入した場合、ダクトなどの設定例  
出典：シックハウス対策のための住宅の換気設備マニュアル



出典：シックハウス対策のための住宅の換気設備マニュアル  
空気の流れ、給気口・排気口などの設定例

ことがポイントとなる。例えば、住宅全体を換気する場合の換気経路は、各居室から給気し、トイレや浴室から排気する空気の流れを考える。

居室の排気をトイレや浴室からまとめて排気するため、居室から廊下、廊下からトイレ・浴室に空気を流す場合、その間にある扉には通気の確保が必須となる。換気経路となる扉は100~150cm<sup>2</sup>の開口が必要とされるため、通常の開き戸には高さ1cm程度のアンダーカットや換気ガラルの設置が必要だ。

加えて、給気と排気が近い設置だと一部分のみの換気となり、完全に空気を入れ替わらないため、給気と排気は対角に設置する必要がある。さらに、扉や換気扇、給気口、排気口など、物を置かせないように設置には注意が必要だ。

例えば、給気口を床面近くに設置した場合、給気口からの冷気で足元が寒いと住まい手がふさいでしまう可能性がある。また、中途半端な高さに設置すると、家具などでふさがれたり、

給湯器などの排気ガスやエアコンの室外機の排熱などが入ってきたりする。

そのため、給気口は壁の高い位置に設置する必要がある。一方、設置位置が高すぎると掃除などの際、手間がかかるので、設計・施工時は、お施主様に配慮しよう。

## 省エネと健康を考える

近年の住宅では、コロナ対策などにおける「健康」と脱炭素化に向けての「省エネ」が重要となっている。例えば、省エネ住宅において「健康」を考えた場合、24時間換気システムだけでは換気は十分ではなく、窓も開けて換気することが推奨されている。

しかし、窓を開けることで必要以上に入れ替わる空気が増える。夏場であれば、エアコンの効きが悪くなり室温が上昇しやすくなり、電気代が余計にかかったりするため、いかに換気による熱エネルギーのロスを抑えるかが重要となる。

「熱交換型換気システム」は、給気と排気の熱を交換し、室温の変化を防ぐのに有効なシステムとなる。熱だけを回収し交換する「顕熱交換式」と、熱と一緒に湿度も交換する「全熱交換式」の2種類がある。同システムは、熱交換によるエネルギー回収により省エネを実現する。

一方、省エネ効果の実現は、同システムの性能だけでできるものではない。住宅性能や建設地などをしっかり考慮し、空気の流れをデザインする必要がある。

## Monthly HAKKO NEWS HEADLINE

### リフォーム工事の合計受注高 前年同期比21.6%増

国土交通省は令和3年度第3四半期受注分の「建築物リフォーム・リニューアル調査報告」をこのほど、公表した。これは市場規模や動向の把握を目的として実施したもので、建設業許可業者5000者に対して昨年10月1日～12月31日に調査したデータとなっている。

同期のリフォーム・リニューアル工事における合計の受注高は3兆1581億円で対前年同期比21.6%増となった。このうち住宅は1兆332億円(同17.1%増)、非住宅工事は2兆1249億円で同23.9%増加した。

住宅の内訳をみると、増築工事の場合は120億円(対前年同期比50.4%減)、一部改築工事は200億円(同15.2%減)、改装・改修工事は8397億円(同31.1%増)、維持・修理工事は1614億円(同16.7%減)となっていた。同じく非住宅建築物の場合、増築工事は2345億円(同275.1%増)と大きく増加した。その他、一部改築工事は331億円(同5.7%減)、改装・改修工事、維持・修理工事は1兆8573億円(同14.9%増)となった。

用途別、構造別に受注高を見た場合、住宅は木造の一戸建住宅が4532億円(同5.0%減)と最も多く、次いでコンクリート系構造の共同住宅が4368億円(同54.2%増)となった。非住宅建築物の場合、コンクリート系構造の「事務所」が2924億円(同2.3%増)で最も多く、次いで鉄骨造の「生産施設(工場、作業場)」が2808億円(同18.7%増)の順となった。

発注者別にデータを見ると、住宅は個人からの受注が6252億円(同0.8%減)で最多。次いで管理組合が多く、その額は1678億円(同93.6%増)だった。非住宅建築物は民間企業などからの受注が1兆6430億

円(同22.5%増)で最多。次いで公共が4063億円(同38.4%増)の順に多かった。

工事目的は住宅の場合、「劣化や壊れた部位の更新・修繕」が153万6151件(同8.5%減)で最多。次に「省エネルギー対策」が6万6361件(同27.6%減)が続いた。

非住宅建築物については「劣化や壊れた部位の更新・修繕」が73万6650件(同24.6%増)とトップを占め、次いで「省エネルギー対策」が6万1382件(同42.2%増)の順で多かった。

### 断熱等級6、7の新設告示される

国土交通省と消費者庁は3月25日の官報(号外第64号)において、断熱等級6、7の新設を告示した。正式な施行は10月1日としている。断熱等級6、7の新設についてはこれまで国交省、経済産業省、環境省の3省合同会議によって検討を進めてきた。一例として滋賀・京都の5地域(一部6地域)の場合、断熱等級6ではUa値0.34、等級7では0.23を満たすこととしている。6地域の場合は等級6で0.46、等級7で0.26となっている。

### ハウスメーカー 集客に苦戦

大手ハウスメーカー各社は去る1回目の非常事態宣言が発令された2020年4月、住宅展示場の来場者数減少によって大幅に集客率が下落した。しかし、2021年にはローン減税や地価の下落、グリーン住宅ポイント制度のスタートなどを要因として、集客・受注が揃って増加。そんなハウスメーカーが今、再びの苦戦を強いられている。大手各社全体を平均で見ると、受注と集客は前年同月比でマイナス傾向。特に住友林業や旭化成ホームズ、ダイ

ワハウスの受注棟数が同比で伸び悩んでいるとの声を聞く。積水ハウスでは非住宅で苦戦しているものの、戸建と分譲で好調。「快適性」、「エコノミー」、「エコロジー」の3要素を打ち出したZEH提案や、2階高の天井による開放感を売りにした鉄骨3・4階建て住宅などが功を奏したとみられる。中堅メーカーではサンヨーホームズの受

注棟数が伸びているが、一方スウェーデンハウスが伸び悩んでいる様子だ。

昨今の住宅関連業界では続く住宅ローン減税やこどもみらい住宅支援事業などの好材料があるものの、その影響は弱い。ロシア・ウクライナ情勢が住宅購入者の購買意欲に暗い影を落としているようだ。

## Monthly HAKKO NEWS HEADLINE

**2022年 全体で前年同月比6.3%の増加**  
**2月着工 持家前年同月比は3カ月連続減少**

国土交通省が令和4年3月31日に公表した本年2月の新設住宅着工戸数は6万4614戸。前年同月比は6.3%増で12カ月連続の増加となった。持家の同比は3カ月連続の減少、貸家の同比は12カ月連続の増加、分譲の同比は先月の減少から再びの増加となった。季節調整済年率換算値は87万2052戸（前月比6.4%増）で4カ月ぶりの増加となった。

利用関係別では、持家は1万9258戸。前年同月比は5.6%減で3カ月連続の減少となった。民間資金によるものは1万7524戸。同比は4.4%減で2カ月連続の減少。公的資金によるものは1734戸。同比は15.9%減で4カ月連続の減少となった。

貸家の前年同月比は4.6%増で12カ月連続の増加。民間資金による貸家の同比は7.4%増で13カ月連続の増加となり、公的資金による貸家の同比は27.3%減で4カ月連続の減少となった。

分譲住宅は2万1453戸。前年同月比は23.3%増で先月の減少から再びの増加。マンションの同比は43.5%増で先月の減少から再びの増加。一戸建の同比は10.7%増で10カ月連続の増

加となった。

構造別では木造が3万5407戸。前年同月比は0.1%減で11カ月ぶりの減少。工法別では軸組木造（在来工法）が2万8502戸。同比は1.2%増で14カ月連続の増加となった。

令和4年2月 新設住宅着工統計（▲は減少、無印は増加）

		戸数	前月比 (%)	前年同月比 (%)
新設住宅合計		64,614	8.2	6.3
利用関係別	持家	19,258	6.2	▲ 5.6
	貸家	23,583	2.2	4.6
	給与	320	▲ 0.9	▲ 23.8
	分譲	21,453	18.2	23.3
地域別	首都圏	25,422	13.1	21.0
	中部圏	8,477	27.2	20.7
	近畿圏	8,873	1.6	▲ 14.1
	その他の地域	21,842	0.1	▲ 2.5
構造別・建て方別	木造	35,407	5.0	▲ 0.1
	一戸建	28,147	5.1	▲ 1.2
	非木造	29,207	12.4	15.4
	共同住宅	25,094	12.4	16.1
工法別	軸組木造	28,502	4.4	1.2
	在来非木造	21,542	17.1	21.0
	プレハブ	8,376	2.9	1.8
	2×4	6,194	5.8	▲ 5.8

# 3つの技術でスピード除菌！

UVストリーマ空気清浄機 オススメです！



高さ  
**500mm**

コンパクト設計

適用床面積：22畳

ACB50X-S

深紫外線UVC LED搭載 **除菌特化型**

ウイルスや菌の抑制効果が高い「KLARAN」を

業界初採用

**除菌  
抗菌**

ダイキンのストリーマを搭載し

**機内全体も除菌**

ストリーマは花粉や臭いに特に有効



●商品詳細



本社 / 〒523-0015 滋賀県近江八幡市上田町 175  
大阪営業所 / 〒530-0052 大阪市北区南船場 7-17 MF 梅田ビル 7F  
京都営業所 / 〒601-8121 京都府京都市南区上鳥羽大物町 28 シグマビル 1F



Monthly HAKKO 2022年5月号 vol.41

発行 / ㈱八興 〒523-0015 滋賀県近江八幡市上田町 175  
TEL.0748-37-7185 <https://www.hakko-gr.co.jp/>